

日本文化として、「おしぼり」の魅力を世界に伝えたい 大学との共同研究により、優れた抗ウイルス技術『VB』も誕生

事業内容

1967年創業

おしぼりの製造・企画開発・レンタル・販売

使い切りおしぼりの企画・製造・販売

おしぼり関連製品の企画開発・販売

おしぼりの可能性を広げるための拠点・共創事業

知的財産権と内容

特許第6739772号	抗菌・抗ウイルス組成物、水溶液
特許第7470730号	抗老化剤及び化粧品
商標第1453220号	VB
商標第6371590号	アロマ
意匠第1564890号	おしぼり用冷温庫

他 商標権40件、特許権11件、意匠権1件

(2025年9月現在)

ACTIVITIES & ACQUISITION IS INTELLECTUAL DATA



代表取締役社長 兼 CEO
藤波 克之さん

先代の意志を継ぎ 更なる「おしぼり」の可能性を模索

当社は1967年、藤波社長の父が自社でおしぼりを製造し、取引先となる飲食店等に貸し出す事業をメインに創業。藤波社長は元々大手通信会社に勤めていたが、後継者となるべく2004年に入社し、2013年に社長に就任した。その後は「おしぼりを日本の文化にしよう」と考え、伝統やノウハウを守りながらもさらなる発展を模索した結果、従来のおしぼりのイメージを一新する独自のヒット商品を次々に開発している。また、世代交代をきっかけに、知財の取得にも注力。商標に関しては以前から「ブランド戦略には不可欠」と認識していたため、商品名に加え、社名である「FSX」の名称およびロゴを権利化した。この名称は創業50周年を機に、先代が立ち上げた「藤波タオルサービス」をリブランディングしたもので、革新的なサービスと新しい可能性を掛け合わせ、世界中に届けるという使命と想いが表現されている。今後も知財の活用を通し、商社機能を持つメーカーとして、会社の財産を保護しつつビジネスを発展させていく方針だ。

抗ウイルス技術『VB』の研究が 特許の取得に繋がった

特許への意識が強まった契機は、当社の代表的な技術である『VB』の開発だった。おしぼりで何か技術にできるものはないかと模索していた頃、ポリ酸の研究を

されていた慶應義塾大学の先生に出会い、ポリ酸の基礎研究から抗ウイルス活性をおしぼりなど雑貨品に活用できないかという流れから、VBの共同研究に発展。約1年後に有用な実証結果が出たことで、先生から「特許を取った方がいい」と勧められたという。知財取得にあたっては、長年顧問を務める弁理士のサポートをはじめ、都度適切な専門家や支援制度（東京都中小企業振興公社の「外国特許出願費用助成制度」等）を活用することでスムーズな取得を実現している。当初は藤波社長が中心となって準備や手続きを行っていたが、徐々に社員にも知財戦略の意志が受け継がれ、自主的に知的財産管理技能士の資格を取得するなど頼もしい人材も増えた。また、『VB』はウイルスや菌を99.99%以上抑制できる技術としておしぼり以外にも応用が可能であるため、2023年に「抗老化」の技術でも特許を取得。「おしぼり文化が普及していない海外にも市場を広げる上では、肌への安全性が高い特性を活かし、『化粧品』として新たなアプローチが必要。その点でも知財は大きな鍵となると思う」と藤波社長は語った。

知財に対する積極的な姿勢と手腕により 「知財功労賞」も受賞

コロナ以前から『VB』の特許を取得していたことで、抗ウイルス製品の需要が高まった後は当社のおしぼりに対する問い合わせが相次ぎ、商標も併せて知財はプロモーションにも非常に役立ったという。また、特に

売れ筋商品となった香りを楽しむおしぼり『アロマプレミアム』は知名度が上がるごとに模倣も増えたが、商標を取得していたことで専門家の力も借りながら適切に保護することができた。また、このような知財を積極的に取得・活用する姿勢から、2023年には特許庁主催の「知財功労賞」において「特許庁長官表彰」を受賞。『VB』を筆頭に基幹技術ブランドとして高め上げた手腕が評価され、おしぼり業界では初の快挙を成し遂げた。

知財取得・活用における苦悩



特許や商標を円滑に活用している印象の当社だが、過去にトラブルを経験したこともある。『VB』という名称はアルファベット2文字で汎用性が高いため、ロゴとして商標を取得しているが、海外展開時に著名人から権利の取り消しを求められる事態になった。藤波社長は「当初はそれだけ有名になったと喜んだが、裁判になった場合、高額な費用がかかるかもしれないと弁理士に言われ、真剣に対応を考えた」と語る。



独自技術を活かし、おしぼりに天然成分の豊かな香りを付けた『アロマプレミアム』

その後、国内で地道に『化粧品』としての製品開発と海外も含めた販売を進めた結果、最終的には先方側が手を引く形で和解に至った。また、近年では取得した知財が増えるごとに社内での管理が負担になっていく、という課題も抱えている。これに対しては、常に知財取得にかかるコストと収益性のバランスを意識すること、また、中長期的に知財管理ができる人材を育成することで解決していきたいという。

知財取得を目指す経営者へのメッセージ



「“開発”という言葉は専門的な道筋で全く新しいものを生み出すというイメージがあったが、実際にはちょっとした工夫や些細な発見もきっかけになる、と気付いた」と藤波社長は話す。また、「知財の取得はあくまでも“手段”なので、まずは“あるべき姿”を思い浮かべ、そこに近付くための工程を考えることが重要だと思う。信頼する専門家やパートナーと共に、協力しながら取り組んでみてほしい」と併せて語った。



『VBおしぼり』の寄贈など積極的な活動が喜ばれている

伝統を変革する強い想いと 経営者としての堅実な姿勢が結び付いた

藤波社長は「アイデアマンとして特許を生きがいにするのも魅力的だと思うが、当社ではあくまでも“収益性”も踏まえ、戦略として追求したい」と語る。また、「専門性の高い技術やノウハウはブラックボックスにし、あえて権利を取得しないこと

で、長期的に商品を守る工夫を行っている」という。さらに、拠点をアメリカや香港、ベトナムにも置き、着実に海外展開の地盤を固める一方で、「的を絞った国を軸に市場を広げていく」という堅実な指針を持っている。「おしぼりという日本ならではの製品を、より魅力的な形で国内外に広めたい」という藤波社長の強い想いと、経営者としての安定した姿勢が結び付き、革新的かつ幅広い分野で求められる技術を生み出している。



知的財産活用のポイント

COMPANY DATA

取材：2025年9月

企業名：FSX株式会社 所在地：東京都国立市泉1-12-3 電話番号：042-576-9131

URL：<https://www.fsx.co.jp/> 創業：1967年 資本金：5000万円 従業員：177名

